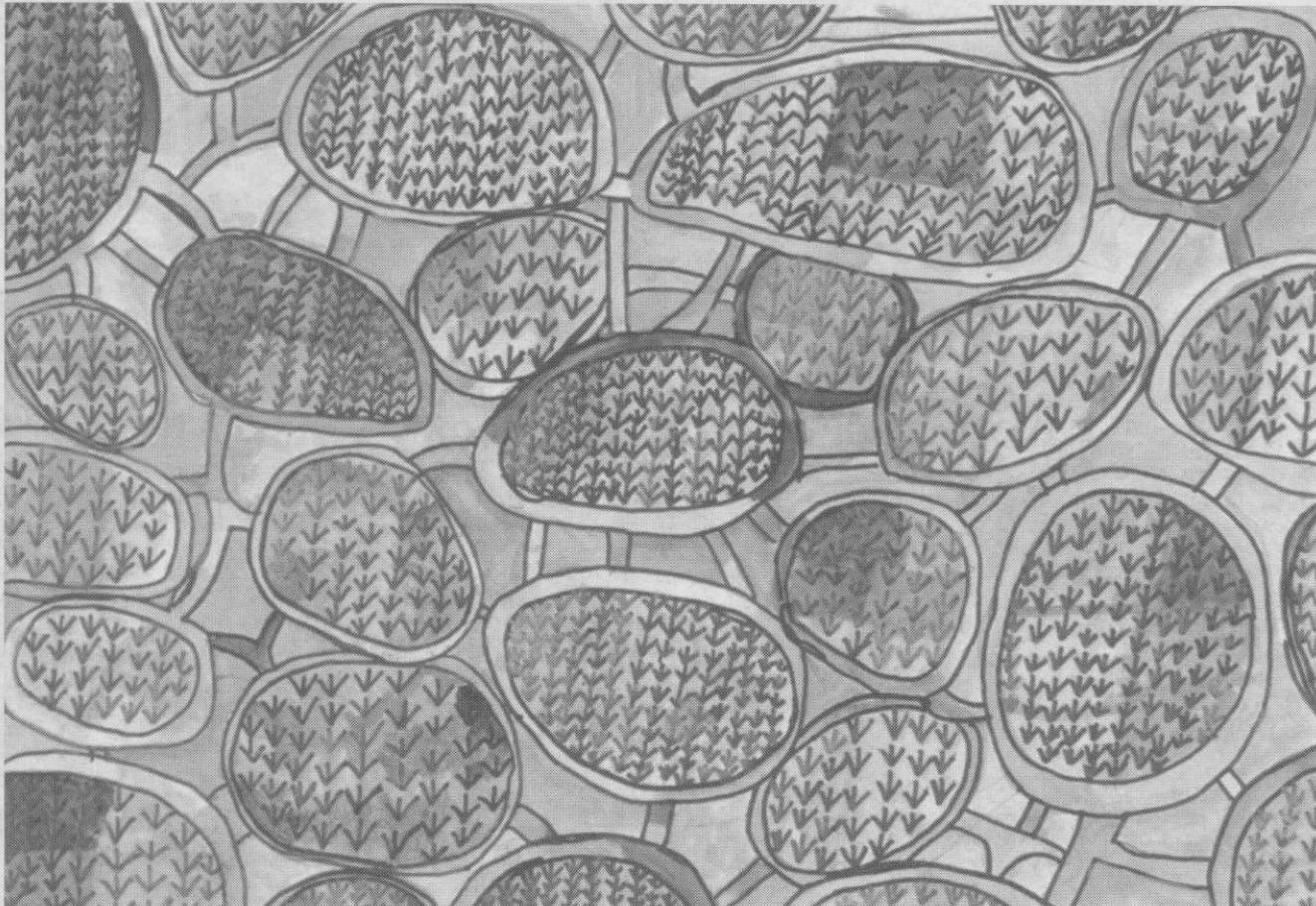


全国の棚田保全・中山間地域活性化のための情報紙

# 棚田 ライステラス

第19号 2000.9.15  
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)  
連絡協議会  
編集／ふるきゃらネットワーク  
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202  
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078



「千枚田のいね」中越光平 桟原町立桟原小学校4年(高知県桟原町)  
「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 東京ガス賞入賞作品

## 棚田に学ぶ

タレント 清水國明

棚田は人間が造りだした素晴らしい芸術作品で、よくまあこんなに見事な造形美があるものだといつも感心して眺めている。人間にしか造り得ないだろうと思っていたのだが、あるとき鍾乳洞の中で「千枚田」と名付けられた、まさしく棚田そっくりの、天然の造形物に出会った。永い年月をかけて水にとけた石灰岩が地の底に造りだした棚田模様である。重力に逆らわず、斜面を水が流れ続けた結果、最も自然な形状になったのだろう。

湧水を一番上の田んぼから均一に分配する棚田のシステムは、自然の理にかなったものであり、その形状も実に良くできている。鍾乳洞の中の棚田のように、永い年月を経て完成された無理のない形、究極の開墾である。

自然をねじ伏せて人間の思うままに開拓し続けた乱暴な開発工事のツケがめぐってきている今、自然との共生を具現化した象徴として棚田に学び、貴重な遺産として後世に残すべきだと思う。

NHK教育テレビの番組「たったひとつの地球」のロケで新潟の棚田を訪れたとき、地元の小学生たちと田んぼの中へ入って生きものを探した。タイコウチやゲンゴロウ、コオイムシ、それにオタマジャクシやドジョウなど、ちかごろめったにお目にかかるない、なつかしい生きものがたくさんいた。僕にとっては旧友たちである。子供のころの遊び相手に再会できて、すごくうれしかった。

驚いたことに今、絶滅が心配されているメダカも群になって泳いでいた。農薬や強力な化学肥料が撒かれても、たえることのない湧水の田んぼで、したたかに暮らしている生きものたち。

軽々に絶滅や外来魚などの増殖を騒ぎたてるばかりでなく、自然の理にかなった棚田という環境だからこそ、今も多様な生きものを育んでいるという事実を、重く受けとめるべきだと思う。

特集

# 棚田のもう一つ教育力

棚田学習のススメ  
全国各小学校の事例から

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展で入賞した徳島県上勝町立上勝小学校2年  
小笠ひかるさんの作品 棚田探険。この作品も授業で実際に棚田探険に出かけて描かれた。

棚田がいま、学校、地域、家庭をつなぎはじめている。各小学校においては、2002年にスタートする「総合的な学習の時間」に向けて、棚田を地域教材にユニークな活動がはじまっている。棚田のある地域にどつては、棚田の問題は教科書のなかの問題ではなく、子どもたちが暮らす地域の問題である。そこには学ぶべき多くのテーマが潜んでいるようだ。

子どもに限らず、教える側の

教師も学びながら、農家など地元の先生を取り込み、家庭を巻き込み、地域全体が活性化していく棚田学習。

取り組みをはじめたどの教師たちも、「棚田の学習は奥が深い。地域にこんな素晴らしい教材があるのを生かさない手はない。いろんなことが学べる。反応もいい」と語り、棚田学習の豊かさと手応えを感じている。

棚田では、さまざまな学びができる。そして、そのなかで多様な感性を育むことが可能だ。それを今回は教育力と呼び、いかなる教育力が棚田にあるのか、各学校の試みを紹介するなかで探つてみることにしよう。

## 自然や人とふれあうなかで 修学旅行で棚田地域に出かける

横浜市立並木第三小学校（神奈川県横浜市）

横浜の都市計画の中でつくられた埋め立て地にある並木第三小学校は、巨大な住宅団地のなかにある小学校だ。

大谷純代校長にとつて、街中で暮らす子どもたちに人と人とのかかわりや「生きる力」に気づかせることは大きな課題だった。

「棚田のもつ自然の良さ、人のふれあいを学ばせたかったのです。農家のお宅に泊めていた

だけてお世話になる。田植え体験をさせてもらう。新潟県東頸城でそんな修学旅行ができると聞いて下見に出かけ、その場で決心しました」。

従来の修学旅行は、栃木日光。だが、それ以上に新潟県安塚町の棚田がつくる自然の偉大さと

「私は、子どもたちに田植えの体験もなく、大人になつてほしくなかつたんです。主食である米の生産の場をせめて一度でも体験してほしかったのです」。



# 先人の知恵と苦労を学ぶ

## 長い長い用水路探険

五ヶ瀬町立坂本小学校（宮崎県五ヶ瀬町）

宮崎県五ヶ瀬町立坂本小学校は、標高560mほどの場所に位置し、学校の周辺は山林、棚田、畑に囲まれている。

昨年6年生の担任だった杉田康之先生は、社会科の地域学習として地元三ヶ所用水路を取り上げ、その水がどこに行くのか、棚田へと学習を発展させた。「地元の用水路を教材にしよう」と思ったとき、最初子どもたちは冷めて見るのかなあと思つていたら、自分たちの祖先がこれを見つかったんだと大きな関心を寄せたんです」。

五ヶ瀬町の三ヶ所用水路は26kmもある。大正時代、餓えに苦しんできた人々が、米を求めて

用水路を開削し、棚田をつくったのだ。

用水路は、棚田に流れ込むまでのあいだに手作業で岩をくり抜いた93ヶ所ものトンネル通り、サイフォンをも渡る。

子どもたちは、1日かけて水源地（頭首工）から、ヘルメットをかぶり、低い姿勢で用水路トンネルの中を歩き、谷を渡るサイフォンを見学し、さらに神社に奉られている用水路開削に携わった後藤寅五郎の像を拝み、先人たちの偉業を全身で理解したという。

さらには役場の建設課から棚田の役割や用水路について説明を受け、またアクリル板でつくった棚田の保水実験模型で、階段状の斜面とまっすぐで急な斜面に水を流し、水の流れ方を比較。段々になつていている方が、水の流れがゆるやかであることを目で確かめました。

全校児童52名。現在4年生が水の循環の学習として、用水路と棚田を学んでいる。どの学年も10人程度だ。自分たちの祖先が苦労しつくつてくれたおかげで、いまがあることを実感できる授業。そんな地域学習が五ヶ瀬町では展開している。

# 棚田をどの教科にも生かしていく

上勝町立上勝小学校（徳島県上勝町）

上勝小学校4年生の担任、藤本勇二先生は、環境学習、自然、食、農、地域、社会環境まで学習すべてを網羅する教材として棚田に奥深さを感じている。日本

の棚田百選に選ばれた棚田もある上勝町に今年から赴任し、棚田の学習に取り組みはじめた。1学期、4年生23人は、百選に選ばれた棚田へ出かけ、荒廃田なども見学。そしてゲストティヤーに農家でもあり、「上

勝の棚田を考える会」代表の谷崎勝祥氏を迎えて、棚田と一緒に歩いて説明を受けただけでなく、後日教室にも招き、じっくり話

を聞いた。

学習結果は、5つのグループでそれぞれ新聞にまとめた。

「棚田での学習は、米づくりだけでなく、低学年はヤゴやイモなど生きものと出会つたり、

高学年になると歴史や整備など現代的な側面の勉強など、6年間を通して勉強できます。

そんな田んぼカリキュラムをつくりたいと考えています」

藤本先生は続けて話す。

「地域の中にこそ、学ぶべきものはあるんですよ。その地域にしかない生活の教科書をつくりたいですね」。

上勝の地域学習のシンボル、

棚田。棚田の学習を理科や社会といった各教科の学習に結びつけこそ、成果があるという。

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展で入賞した上勝小2年生の作品「棚田探険」（P.2上）も4年生とともに棚田を探険して、図工の時間に描いたものだ。

実際にイモリにふれたことが見ている側にも伝わるだけでなく、探険した小規模な棚田の印象が見事に表現されている。

88名の全校児童は、棚田のかで多くを学び、豊かな感性を磨きはじめているようだ。



上：教室に「上勝の棚田を考える会」の谷崎さんを迎えてじっくり話を聞く。  
右：1学期の学習をグループごとにまとめた壁新聞の1つ。

# 地域の未来を考える材料に

浮羽町立姫治小学校（福岡県浮羽町）

姫治小学校5年生の自慢はなんといつても棚田を自分たちで校庭につくったことだ。

4年生のとき、地域学習の一環として地域の「がきつき（石垣を組む人）職人」を招き、一緒に石垣を積み、ミニ棚田2枚をつくった。

その棚田に今年はイネが植わっている。5、6年生は米づくりを棚田で行っているが、5年生はミニ棚田にもイネを1人3株ずつ、11人分33株を植えた。水が引けないので陸稻だが、この秋りっぱに穂が実った。

4年生時に「棚田のひみつ」として役割や生きもの、棚田で

秋りっぱに穂が実った。  
4年生時に「棚田のひみつ」として役割や生きもの、棚田で  
秋りっぱに穂が実った。

田をしつかりと見ていくんです」。

棚田をもつと生かして大勢の人々に浮羽に来てもらいたいという意見も多かったという。

「全校で47人ですから、近所に友だちがなく、さみしいという子どももいます。だからこの地域にもっと人が集まるようにしたい。そのためには棚田を見に来てもらうのがいいと。また棚田の近くに宿泊施設をつくろうとか、棚田への道が細く車が通らないので、馬車を使ってはどうかなど、棚田を軸に地域の未来を考えている子は多いんです」。

子どもたちの学習の成果は、ホームページで見ることができます。ほか、第6回全国棚田サミットでも発表される。

の苦労、知恵などの調べ学習をしてきた。今年は「棚田を生かしたところで、未来に向けて地域を見直す学習」に取り組んでいる。5年生の担任、尾畠美恵子先生はいう。

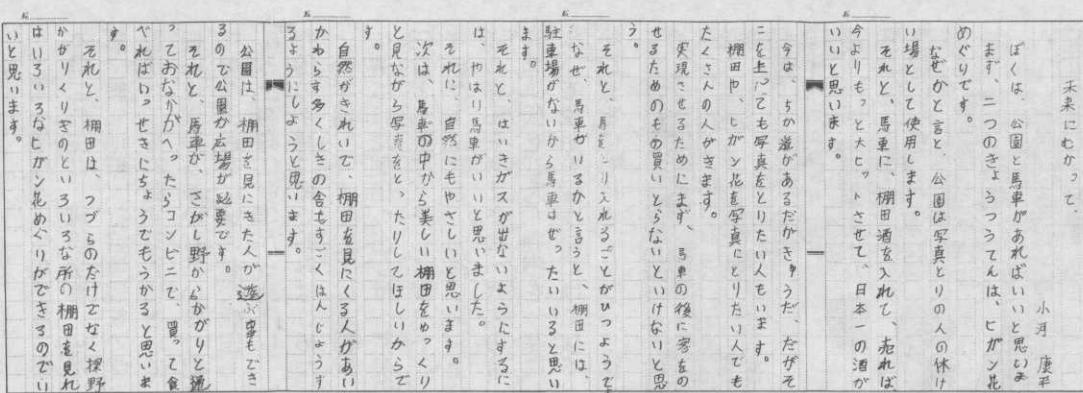
「4年生のときの棚田の学習の成果は大きいようです。たとえば『病院はほしいけれど、病院をつくるとなると、棚田を壊さなきやならないからいやだ』とか『一番上の棚田がダメになつたら、全部使えなくなる』など、子どもたちは生活の中で棚田をしつかりと見ていくんです」。

棚田をもつと生かして大勢の人々に浮羽に来てもらいたいという意見も多かったという。

「全校で47人ですから、近所に友だちがなく、さみしいという子どももいます。だからこの地域にもっと人が集まるようにしたい。そのためには棚田を見に来てもらうのがいいと。また棚田の近くに宿泊施設をつくろうとか、棚田への道が細く車が通らないので、馬車を使ってはどうかなど、棚田を軸に地域の未来を考えている子は多いんです」。

子どもたちの学習の成果は、

ホームページで見ることができます。ほか、第6回全国棚田サミットでも発表される。



# 水のひみつ・棚田の水源地探検

星野村立椋谷小学校（福岡県星野村）

星野村には4つの小学校があり、椋谷小学校はその中でもいつも棚田の多く、見事な石積み棚田に囲まれた学校である。

全校児童は55名。

毎年5、6年生は種まきから米づくりを棚田で行っている。

「棚田探検」や「水のひみつ－水源地探検」など棚田学習に取り組んできた。

久米南町立誕生寺小学校（岡山県久米南町）

星野村には4つの小学校があり、椋谷小学校はその中でもいつも選ばれた棚田に出かけ、1つとも棚田の多く、見事な石積み棚田を下から登って、37段ある棚田を下から登つて、

棚田がどこまで続いているか確かめた。4年生は棚田の水源地を探し訪ね、下からぼこぼことわき出てくる水に感動し、その水が星野川に流れ込み、村を潤す不思議を体験した。

こうした取り組みは第6回全国棚田サミットで発表される。

久米南町にある誕生寺小学校全校児童83名は、毎年恒例で棚田での米づくりを行っている。さらに、5年生は校庭でも米づくりをし、棚田との比較を行う。

4年生は、水とのかかわりを学習し、水源地を訪ねたり、おじいちゃんたちから水との闘いの話を聞きもした。

また秋にはイネ刈り後、3世代交流として、刈り取ったイネで正月用のしめ飾りをつくるのも恒例になつていて。さらに、それたもち米で1年生はおこわ、4年生はよもぎもち、6年生はさくらもちと食文化の学習も行われている。

全校児童で米づくりを行つうこ



# 棚田の学習を地域にかえしていぐー棚田学習フルコース

安塚町立安塚小学校(新潟県安塚町)

## まだまだいっぱい、棚田で米づくり、

安塚小学校5年生37人は、棚田を学びのフィールドとしてフル活用している。5年生の担任、

館岡真一先生は、1年間の総合活動の時間に棚田学習を行い、

米づくり、米の流通、生態系、環境・国土、農業、過疎化・減反問題、棚田保全、文化など棚田をさまざまな角度から考えていくプランを立てた。

この夏休み、館岡先生は1学期分の棚田学習活動をまとめている。そこから紹介しよう。

学習は、荒廃田の写真を見て、ふるさとの棚田が減っている事実に気づき、棚田を守りたいという問題意識からはじめた。「棚田がなくなるから、わたしたちが棚田で米をつくればいいと思う」。1人の発言にクラス全員が賛成し、棚田で米づくりをすることになった。

田植えのあとには棚田と学校田の生きものを比較し、棚田には大型で多様な水生昆虫が多いことを実感するほか、カメラをもつて町内の荒廃田の様子を調査に出かけ、マップも作成した。さらに、子どもたちはなぜ荒廃するのか話し合いも行う。「山まで行くのがめんどうなんだよ」「機械が入りにくいからだよ」。棚田を守るために「棚田の良さを新聞やポスターで宣伝す

る」「棚田復活基金を集める」などのアイデアも出た。

後日、実際農家の人に荒廃が進む理由や農業を続ける理由も聞きに出かけ、認識を深めた。

子どもたちは除草剤を使わない。子どもたち自身が1円でも費用をかけずにつくりたいと、手で田の草取りを行うと決めた。

また田の草取りの合間に、休みた。農作業も農家の先生や自分たちで話し合って決める。

費用をかけずにつくりたいと、手で田の草取りを行うと決めた。

3人／●みんなの前でも発表できるようになつた—3人／●自分の考えをもてるようになった—3人。そんな反応が出ている。

保護者からは「子どもと出かけたとき、「あれも棚田だね。きれいだね」という言葉が聞かれました。また『あの田んぼも荒

れている』とか『ママをつくっている』父『ああしておくと、またすぐ米づくりをすることができるんだよ』などといままでになかつた会話が出るようになります」。

家庭への影響も大きい。食卓のご飯のことも話題になる。子どもたちは棚田の学習を通して、自分で考え、行動を起こしていくことを学んでいた。

最近では棚田オーナーにクラスで申し込んでいる例として、イネ刈りを行っている。

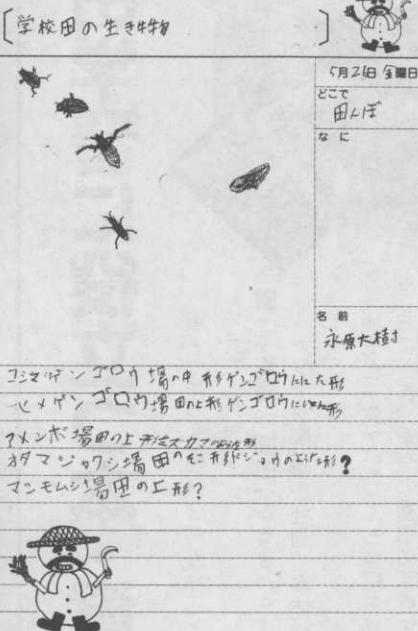
棚田で米づくりを行っている小学校は多い。岡山県佐伯町では、10年ほど前から奥塩田棚田保存会の人たちと地元小学生が交流をしながら棚田で田植え、

耕田(調整水田)へジャンプして遊ぶ子どもたち。棚田は、遊び心も充分に満たしてくれる楽しい場なのだ。

さらには地元の写真家を招いて棚田を撮影。文化祭で棚田写真展を開催する予定だ。

お年寄りとの交流会でもわらで縄ないを行い、わらぐつ、背負子、わらそりも身につけた。

1学期を終え、子どもたちは、



## 交流、環境教育 etc.:

三重県紀和町では千枚田の田植え、イネ刈りを通じて海に面した海山町の小学生と交流し、網曳き体験なども行った。そのほか、新潟県吉川町では町内3つの小学校で「田んぼの学校」を創設し、里山、田んぼ、ため池、ブナ林、生きものなど環境教育に取り組んでいる。この活動は(社)農村環境整備センターが支援する第1回「田んぼの学校」企画コンテストにおいて金賞に輝いた。

その中の1つ旭小学校では、アイガモ農法に取り組み、生きものと深くかかわりながらその悲喜こもごもをまとめた新聞を子どもたちが発行している。

あなたの地域ではどんな取り組みが行われているだろうか。

# 棚田のもつ教育力

棚田は、田んぼ一枚を切り取つて語れるものではない。棚田は暮

りじっくり向き合うと、棚田は暮らしのものであり、人々の、

また地域の営みなのだといふことを教えられる。

だからこそ「棚田」という切り口は一つであっても、その中は無数の道があり、また学習に取り組んだ人たちが、新に開拓していくものもあるだろう。

テーマは無限にありそうだ。

イネのこと、害虫のこと、農業のこと、荒廃田のこと、棚田保全、減反・転作・整備、高齢化・過疎化・獣害・生態系・動植物・環境保全・国土保全・土木技術・農具・暮らし・知恵・文化・農村・食……そして、そこは多彩な遊びを生み出す場でもあり、

子どもたちは五感を通して体験し、尋ね、学び、自分でじっくり考え、さらには自分の言葉や絵などで自由に表現する。

そして地域には農家や郷土史家、おじいちゃんおばあちゃん、いろいろな先生がいる。

新潟県安塚町では、町認定の環境教育インストラクター育成をはじめた。子どもたちにブナ林の案内や棚田の環境保全、国土保全の役割などを説明する地元の人たちの育成だ。

子どもたちが、身近な教材に

触れながら自ら問いをもち、地域や家庭に話題を提供していく。

地域を学習に生かすだけでなく、地域にその学習を生かす時代がやってきたのだ。

こうした学びは、家庭や地域を越え、都市との交流や地域間交流へとつながり、学習活動はどんどんダイナミックなうなりをもつていくだろう。

こうした学習は、地域への愛着を抱かせるにちがいない。

棚田には大きな教育力がある。学校だけでは、その力を最大限に引き出しきれないだろう。地域とのつながりがあつてこそ百人力となる。

地元にどんな先生がいるか、こうした情報を学校に提供していくことも地域の役目の一つではないだろうか。

土にふれ、米を育て、共に働き汗を流すだけでなく、食やりのちの大切さを知り、さらには地域を巻き込み、子どもたちの感性を豊かにする棚田がもつ教育力は今後注目すべきだろう。

もちろん、こうした場は学校

教育に限らない。地域で、クラブ活動で、そして大人们も棚田での遊びを楽しむ。社会教育の場での取り組みにも期待できるだ。

まずは棚田へ出かけよう！ そこは遊びのフィールドなのだ。

# 棚田学習に役立つ本・資料

各県や自治体も棚田に関するパンフレット発行しています。それぞれの地域にお問い合わせください。

境・文化など多様な角度からと  
らえた入門書。

■「写真集 棚田」ふるさやらね  
ツトワク編(講談社刊) 本体・  
1456円

■「日本の棚田」中島峰広著(古  
今書院刊) 本体・3200円

棚田の専門書。全国の棚田保全  
への取り組みが詳細に分析され  
ている。

■「信州の棚田ものがたり」ふる  
さときやらばん編(ふるさと  
やらばん刊) 税込・1500円

長野県の市町村すべてに聞き取  
りがなされ、農家の思いが収録  
されている。

■「日本の原風景・棚田」創刊号  
第1号 各本体・1000円

棚田学会の学会誌。研究者や実  
践者による論文、レポート集。

■「石積みの棚田—恵那市中野方  
書」(岐阜県恵那市教育委員会刊)  
のさまざまなノウハウがわかる。

■「どうちゃんのトンネル」作・  
絵・原田泰治(ボプラ社刊)

本体・1165円

父親が棚田を開墾し、横井戸を  
掘り、田に水を引いた思い出を  
描いた絵本。

■「棚田はエライ」企画・ふるさと  
きやらばん/監修・新潟県安塚  
町/編著・石井里津子(農文協  
刊) 本体1619円

## 資料

●「日本人・暮らし 新しい法律  
『食料・農業・農村基本法』」

「地球・人・食料 21世紀の日  
本(農業の果たす役割)」

「大地・人・水 稲作文化はこ  
うして広まつた」

(全国土地改良事業団体連合会発行)

●「山の神様? 会ってみたいな  
棚田」

(企画・農水省北陸農政局ほか)

●「静岡県棚田等十選」「未来に  
残したい棚田」(静岡県農政部発行)

●「多様な機能を果たす『棚田』  
を守るために」

(広島県農林水産部農村整備課発行)

●「棚田つてなんだろう? やま  
ぐちの棚田マップ」

(山口県農林部農村整備課)

●「棚田や段畑の保全を目指して」  
(愛媛県農林水産部農地整備課発行)

●「棚田は生きている」  
(高知県農林水産部耕地課)

●「星野村石積み棚田のものが  
たり」

(福岡県星野村発行)

●「日本の棚田百選認定 タナ  
ダイレブ」

(熊本県農政部農村整備課発行)

●「私たちが守り育てた用水路  
と棚田」(宮崎県農政水産部刊)

●「棚田のつぶやきが聞こえま  
すか?」(宮崎県農村建設部発行)

●「先人達からの贈り物 棚田」  
(棚田等保全協議会がこしま発行)



# 島根県柿木村

取材・文・石井里津子

換えられないものもあるんです。たとえば棚田で無農薬有機米を育てる。そんなおもしろい仕事はそうないでしょ?」

## 棚田保存会「助はんどうの会」

「かつて東京で柿木村って書けなかつたんです。でもいま、「村」で良かつたんです。ほんとに「村」で良かったと思える。『棚田』で良かったって思うんです。

棚田なくして地域づくりは考えられないですよ。逆に平地より条件がいいですよね」。

島根県柿木村産業課、棚木昭典氏から出てきた言葉に耳を疑つた。なぜ、ここの人々はこんなしっかりとした自信と誇りをもつことができたのだろう。

驚きはまだ続いた。日本の棚

田百選にも認定された大井谷地区で棚田保全と地域振興のため結成した「助はんどうの会」事務局長・村上一郎氏(42)も「平地に生まれたら2町や4町の田んぼをつくつたかもしない。でもこの地に生まれて良かった。棚田は金には厳しいけれど、夢がありますよ。お金に

「村で良かった」「棚田で良かった」そんな思いが聞けた村

「助はんどう」。これは大井谷棚田の一番上にあり、わき水が貯まるようくぼみを掘られた大きな石の名だ。かつてひどい干ばつのとき、人々はここに貯まつた水を分け合い、助け合つて生き延びたことから「助はんどう」(はんどうとは「瓶」の意)と呼ばれている。保存会はこの石にちなんで名付けられた。

最近、棚田保全に向けて話し合う機会も増え、またよりも良くなつた。もともと年1回正月の4日に「初寄」を開き、集落全体で1年間の行事や作業日をみなで決めている地域でもある。1998年9月「第1回大井

石積みの棚田が600枚以上、10haほど広がる。南向きで日照時間が長く、おいしい米ができる。その昔、津和野藩主への献上米もこの地から出ていた。

「助はんどうの会」は1998年、大井谷地区全21戸で結成されれた。家々は棚田に囲まれており、生活空間がまさに棚田だ。つまり、くことはできなかつたという。

会長の三浦輝夫氏(53)は「10年先を考えたら何もできんですよ。やつてみると先はわかる。なぜ、ここの人々はこんなしっかりとした自信と誇りをもつことができたのだろう。

棚田が荒れる=生活環境が荒れること。そんな現状を放つておくことはできなかつたという。

なるとそれはいかない。そこで、収穫した時点で事務局が買い取り、販売を受けもつことにした。

低農薬有機栽培コシヒカリ米だ。売値で玄米3kg1万6000円。年間180袋のみの限定品。付加価値が付く分、JAに卸すより農家の取り分も当然いい。

その代わり食味計にかけ、「大

井谷米」基準にそぐわない米は受け付けない。だからうまい。評判は口コミで広がっていく。

こうした裏で行政もバックアップを怠らない。棚田米の販売協力に限らず、他棚田地域への視察、情報収集、資料・パンフレットの作成、PR、棚田フォーラムの開催、棚田石垣の調査など

井谷米」基準にそぐわない米は一方、村は「健康と有機農業の里」で売り出している。20年以上前から有機農業に取り組み、独自の道を模索してきた。

基本的な考えは「自給自足」。安全な食べものを自分たちのためにつくろう。その余剰を市場に出して換金すればいい」。

「これからは地元がやる気を起こさんとダメよ。地元にやる気があれば、行政はそれを後押ししてくれる時代ですよ」。

「これからは地元がやる気を起こさんとダメよ。地元にやる気があれば、行政はそれを後押ししてくれる時代ですよ」。

産業たた木炭が、石油への転換、さらにはオイルショックの到来で揺れた経験がある。そこから、石油に左右されない足腰の強い農業を求めた結果だつた。

いま、それが大きな付加価値として評価され、多くの消費者と提携するようになつてきた。

## 健康と有機農法の里づくりから

柿木村の役場庁舎は真新しい。この新庁舎建設には素敵な逸話がある。昭和初期に建てられた木造の旧庁舎はすさま風が吹き抜けるほど老朽化していたという。木造の旧庁舎はすさま風が吹き抜けるほど老朽化していたという。

木造の旧庁舎はすさま風が吹き抜けるほど老朽化していたという。木造の旧庁舎はすさま風が吹き抜けるほど老朽化していたという。

87,000人来場!



全国土地改良事業団体連合会・都道府県土地改良事業団体連合会主催

# 水の道「通潤橋」・棚田・めだか・河童 「ふるさとの水と土体験展」

2000年7月25日～8月6日

農業生産になくてはならない役割を果たしている通潤橋や三連水車などの歴史的な土地改良施設。この施設は先人たちの偉大な英知と気の遠くなるような努力により完成したものだ。また全国には、美しい農村風景がたくさん残っている。こうした農村を守るために大変な努力と住民の協力が必要となってくる。

そこで今回のイベントは、この土地改良施設の有する歴史や役割、そして美しい農村風景を迫力あるジオラマ(模型)、コルト形式の写真、そしてメダカや河童、玩具づくりを通して、できる限り大勢の人々に見てもらい、関心を持つもらうことを通じ、農業、農村をどのように護り、育てるかを考えてももらう機会にして企画することにした。

期間中(7月25日～8月6日)、

会場(日本橋三越本店7F催し物会場及び屋上)には、約87000名もの入場者が訪れ、昨年の「棚田パノラマ体験展」に引き続き大変なにぎわいとなり、わが全国土地改良事業団体連合会スタッフもうれしい悲鳴あげながら会場を駆けまわらせていただいた。

歴史的な土地改良施設や棚田、ため池など、ふるさとの原風景

の鮮明な画像に驚きを隠せず見る人。農耕春秋図屏風に江戸時代の農作業や農村風景を学び、古い農機具を間近に見て子どもたちを懐かしむ年輩の方。水草や陰に潜むメダカたちを探すのに、水面すれすれにのぞき込んでいる子どもたち。また、子どもと一緒にになって、あるいはそれ以上に、メダ力を一生懸命探しているおとうさん、おかあさん。昔を懐かしんでいる姿がまるで童心に返ったかのようで印象的だつた。

通潤橋ジオラマの前では、ふるさときやらばんによる「通潤橋ができるまで」をペーパーサーク(紙芝居)で紹介。大人も子どもも開催時間前から大勢の人たちが集まり熱心に聞き入ってくださった。

屋上には、福岡県朝倉町の筑後川にかかる三連水車を再現。その前の小川では、三連水車が回る水しぶきの下でワークショップで作成した水鉄砲で水をどこまで飛ばせるか記録会が行われ、炎天下にもかかわらず子どもたちは水遊びに夢中になり、親子での夏休みの楽しい一時になつたのではないかだろうか。

また、ワークショップコーナーでは、都会の子どもたちを対象に、ふるさとでは身近にある

全国土地改良事業団体連合会 企画研究部長 小林 厚司

熊本県矢部町長 甲斐 利幸

## すばらしき2週間

## 通潤橋の魅力を伝えに

東京のど真ん中の通潤橋ともゆかりのある日本橋のデパートで、私のまちの通潤橋が紹介されるという話を聞いて、私は、大きな喜びを感じ、即座に何らかの形で支援をしたいと思いました。矢部町の通潤橋が、どんなに素晴らしい思想で、江戸の末に建設されたのか、当時の矢部の惣庄屋の布田翁が身命を賭して、白糸台地の農村を豊かにするため、幾多の困難を克服して、この橋を完成させたのか。私は、都市の皆様にそれを伝えるように思いました。

今、日本の都市では、コンクリートとアスファルトの世界で生活が営まれています。そこには、水・緑という自然の優しさが欠けているように思います。

テレビ・ファミコン等の無機質なものを対象として成長していく子どもは、人としての精神形成過程において、不自然な感情や情緒を育んでいくのではないかと懸念しております。

私は、草深い、自然豊かな山村において、近世の農業土木の最高傑作と評価される通潤橋が、多くの教訓を今に伝えている素晴らしさを、都市の子どもたちにも理解して欲しいと思いました。

東京都下の小学校、千四百校程に、直筆の案内状を印刷して送りました。通潤橋ばかりではなく、



右上：毎回、満員だったワークショップ。

左：会場につくられた高さ2メートルの通潤橋の模型からは放水も。

# 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 入賞入選者名

△応募総数:4272点 △入賞作品数:23作品 △入選作品数:100作品  
全国棚田(千枚田)連絡協議会会員のみなさまからのご協力、誠にありがとうございました。

## <入賞>

【農林水産大臣賞】	高梨 真美 長狭中2年(千葉県鴨川市)
【環境庁長官賞】	宮脇 史佳 香川大附属高松小1年(香川県高松市)
【文部大臣奨励賞】	竹田 翔一 林田小2年(香川県坂出市)
【ふるさと水と土最優秀賞】	富田 小学校5年生14名(福島県川俣町)
【ふるさと水と土優秀賞】	高橋 慧 東綾瀬小6年(東京都足立区)
【ふるさと水と土優秀賞】	増子 恵美 緑ヶ丘第一小4年(福島県郡山市)
【ふるさと水と土優秀賞】	とき ソフィア みらい リビ・フルカレス・モラン(スハイ)5歳(東京都杉並区)
【全国土地改良事業団体連合会長賞】	中土小学校6年生8名(長野県小谷村)
【全国農業協同組合中央会長賞】	手塚 真衣 日野第三小5年(東京都日野市)
【日本経済新聞賞】	川崎第二小学校6年生11名(宮城県川崎町)
【朝日小学生新聞賞】	渡辺由比香 雙葉小2年(神奈川県横浜市)
【三越賞】	西田沙也桂 仁田原小3年(福岡県星野村)
【安田火災環境財団賞】	相澤 知里 3歳(新潟県新潟市)
【王子紙製賞】	赤津 咲緒 加治中2年(埼玉県飯能市)
【東京ガス賞】	中越 光平 桃原小4年(高知県桃原町)
【ヤンマー農機賞】	松木 友美 田嶋小6年(愛媛県丹原町)
【信用金庫賞】	吉野 賢輔 高洲小5年(静岡県藤枝市)
【三井物産賞】	赤穂 美江 仁田原小4年(福岡県星野村)
【明治乳業賞】	吉野 彰兼 高洲小4年(静岡県藤枝市)
【花王賞】	小笠ひかる 上勝小2年(徳島県上勝町)
【プリマハム賞】	大越 純也 林田小2年(香川県坂出市)
【浅草ビューホテル賞】	秋山 将輝 上小岩第二小5年(東京都江戸川区)
【ふるさときやらばん賞】	GINNANKID'S のばら保育園OB・OG13名(本郷小)(長野県松本市)

## <入選>

横尾 美吹 南雲 聖広、早川 誠 安塚保育園3歳(新潟県安塚町)	西川かりん 竜宮保育園5歳(愛知県武豊町)	赤池 佳乃 園部幼稚園5歳(京都府園部町)	せきゅりえ 川島保育所6歳(香川県高松市)	阿部 怜奈 月館小1年(福島県月館町)	高橋 輝 月館小1年(福島県月館町)	佐藤 南斗 保原小1年(福島県保原町)	和田 岳丈 星が丘小1年(神奈川県相模原市)	中村 宣仁 村岡小1年(兵庫県村岡町)	五十嵐傑矢 下田小1年(奈良県香芝市)	井上 真美 入野小1年(佐賀県肥前町)	長谷部 瑞 出野小1年(大分県前津江村)	菅野 郁 保原小2年(福島県保原町)	島田 理司 昭和学院小2年(千葉県千葉市)	田代 友恵 劇場小2年(東京都国分寺市)	長戸 雄大 村岡小2年(兵庫県村岡町)	梅平 優作 上勝小2年(徳島県上勝町)	地下 昌里 香大附属高松小2年(香川県高松市)	いとうかずかた 仁原田小2年(福岡県星野村)	飯石 舞香 真城小2年(熊本県大津町)	御岳西部小2年(熊本県矢部町)	くり山はやと 御岳小2年(熊本県矢部町)	高橋 美香 照島小2年(鹿児島県串木野市)	鎌田 朱音 泊小3年(北海道泊村)	桑島 美咲 小島小3年(福島県川俣町)	我孫子第四小3年生33名(千葉県我孫子市)	堀井 純里 根岸小3年(東京都荒川区)	石原 由季 駒場小3年(愛知県豊田市)	角田 哲朗 下市小3年(奈良県下市町)	姫治小3年生7名(福岡県浮羽町)	山下 誠司 御岳小3年(熊本県矢部町)	五反田拓人 幸田小3年(鹿児島県粟野町)	坂本 南 鶴田小4年(青森県鶴田町)	富田小4年生20名(福島県川俣町)	村井亜耶菜 駒場小4年(愛知県豊田市)	上野 南 三庄小4年(徳島県三加茂町)	河野もも子 中萩小4年(愛媛県新居浜市)	小島こうへい 浦和小4年(熊本県有明町)	多賀 希 阿南小4年(大分県庄内町)	佐藤あつき 主基小5年(千葉県鴨川市)	谷 啓輔 牛島小5年(徳島県鳴門町)	今村 朝美 平川小5年(熊本県大津町)	中村 順基 浜町小5年(熊本県矢部町)	相馬 瑞紀 妙堂崎小6年(青森県鶴田町)	飯土井千帆 駒ヶ嶺小6年(福島県新地町)	高田 駿平 野畑小6年(大阪府豊中市)	中村 友美 射添小6年(兵庫県村岡町)	大川奈津美 田浦小学校6年(愛媛県丹原町)	大原ちひろ 大江小6年(熊本県熊本市)	鶴岡 祐介 長狭中1年(千葉県鴨川市)	高屋 友佳 マキノ中2年(滋賀県マキノ町)	下川 雄大 西中3年(兵庫県伊丹市)		
たべえりな 駒場小4年(愛知県豊田市)	古川 翔 中萩小4年(愛媛県新居浜市)	内城寺一平 佐賀大附属小4年(佐賀県佐賀市)	伊藤みどり 阿南小4年(大分県庄内町)	根岸 龍樹 和共小5年(埼玉県児玉町)	川島 麻理 小平第一小6年(東京都小平市)	中村 優希 牛島小5年(徳島県鴨島町)	坂本 杏子 浜町小5年(熊本県矢部町)	笹森 優和 鶴田小6年(青森県鶴田町)	山本 愛 鶴田小6年(青森県鶴田町)	富田小学校6年生10名(福島県川俣町)	梅津 久巳 村岡小6年(兵庫県村岡町)	高橋美由紀 射添小6年(兵庫県村岡町)	山崎 誠 棕谷小6年(福岡県星野村)	清水 理絵 清原小6年(鹿児島県坊津町)	吉澤 知紗 旭東中1年(大阪府大阪市)	西井差也香 児塚中2年(兵庫県村岡町)	田所 季峰 桜町中3年(香川県高松市)	たべえりな 駒場小4年(愛知県豊田市)	古川 翔 中萩小4年(愛媛県新居浜市)	内城寺一平 佐賀大附属小4年(佐賀県佐賀市)	伊藤みどり 阿南小4年(大分県庄内町)	根岸 龍樹 和共小5年(埼玉県児玉町)	川島 麻理 小平第一小6年(東京都小平市)	中村 優希 牛島小5年(徳島県鴨島町)	坂本 杏子 浜町小5年(熊本県矢部町)	笹森 優和 鶴田小6年(青森県鶴田町)	山本 愛 鶴田小6年(青森県鶴田町)	富田小学校6年生10名(福島県川俣町)	梅津 久巳 村岡小6年(兵庫県村岡町)	高橋美由紀 射添小6年(兵庫県村岡町)	山崎 誠 棕谷小6年(福岡県星野村)	清水 理絵 清原小6年(鹿児島県坊津町)	吉澤 知紗 旭東中1年(大阪府大阪市)	西井差也香 児塚中2年(兵庫県村岡町)	田所 季峰 桜町中3年(香川県高松市)																		
笛などの玩具づくり教室を開催。受付開始前から行列ができるほどの大人気ぶりだった。	楽器づくり教室もあり、子どもたちが竹を削つて楽器づくりに挑戦し、つくった楽器を手に会場内のミニステージでミニコンサートと一緒に演奏。子どもたちにとっては夏休みの工作づくりとともに楽しい思い出の一いつとなつたと思う。	関連イベントとして、「ふるさと水と土」子ども絵画展と「ふるさと水と土」子ども絵画展を開催。全国から、総数427点と、予想を遥かに上回る作品の応募に事務局は大慌て。幼稚園児から中学生まで、思い思いのふるさと水と土優秀賞などが描かれ、その表現・イメージ・画材は自由・多様で、	質が高く、また構図のアイデアも優れ、多くの作品が審査員をうならせた。	入賞、入選123点について	は7階イベント会場及び地下コンコース(地下鉄銀座線と半蔵門線を結ぶ連絡通路)に展示し、会場及び地下道を通る人々が大勢足を止め見入っており、関心の高さに驚かされた。	また、東京駅北口コンコースでは長野県食料・環境・ふるさとを考える地球人会議が主体となり、「ふるさと水と土」子ども絵画展と開催。全国から、総数427点と、予想を遥かに上回る作品の応募に事務局は大慌て。幼稚園児から中学生まで、思い思いのふるさと水と土優秀賞などが描かれ、その表現・イメージ・画材は自由・多様で、	は7階イベント会場及び地下コンコース(地下鉄銀座線と半蔵門線を結ぶ連絡通路)に展示し、会場及び地下道を通る人々が大勢足を止め見入っており、関心の高さに驚かされた。	今回のイベントの実施については、企画の段階から、ふるさと水と土優秀賞などを、各都道府県土改協議事業団体連合会、熊本県矢部町、福岡県朝倉町の皆様をはじめとして、全国棚田(千枚田)連絡協議会ほか、多くの方々に力を尽くしていただき、また農林水産省、文部省、環境省、東京都など多くの後援、そして多林水産省、文部省、環境省、東京都など多くの後援、そして多くの団体、企業の協賛、協力、さらにたくさんの方々の応援をいたしました。盛況のうちに幕を閉じることができたことに対し、ここに紙面を借りて深く感謝申しあげたい。	は7階イベント会場及び地下コンコース(地下鉄銀座線と半蔵門線を結ぶ連絡通路)に展示し、会場及び地下道を通る人々が大勢足を止め見入っており、関心の高さに驚かされた。	今回のイベントの実施については、企画の段階から、ふるさと水と土優秀賞などを、各都道府県土改協議事業団体連合会、熊本県矢部町、福岡県朝倉町の皆様をはじめとして、全国棚田(千枚田)連絡協議会ほか、多くの方々に力を尽くしていただき、また農林水産省、文部省、環境省、東京都など多くの後援、そして多くの団体、企業の協賛、協力、さらにたくさんの方々の応援をいたしました。盛況のうちに幕を閉じることができたことに対し、ここに紙面を借りて深く感謝申しあげたい。	は7階イベント会場及び地下コンコース(地下鉄銀座線と半蔵門線を結ぶ連																																										

# 山口市で棚田パネルディスカッショニ開催

## 「農業の持続的発展～棚田に見るその可能性～」をテーマに

山口県に農村整備課（旧耕地課）

が創設され今年で70年を迎えるのを記念し、「農業の持続的発展～棚田に見るその可能性～」をテーマにしたパネルディスカッショ

ンが7月8日、山口県山口市民会館で開催され、6人のパネリ

ストにより、1200名の参加者のもと県北西部の油谷町向津具半島に広がる大棚田地帯をケ

行われた。昨年7月の食料・農業・農村基本法の施行を受けて、「棚

田学会」と「食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議」が主催した。

パネルディスカッショニは、棚田学会会長の石井進・東京大学名誉教授をコーディネーターに、

田地帯であるこの半島にこれほど

の棚田やため池が今なお維持されている要因は何か、その答え

こそが新基本法に掲げられた理

念の柱の一つである「農業の持続的な発展」のキーワードとなり得るのでないかとして、活発な議論が進められた。まとめとして、この地と関係の深い毛利元就の「三本の矢」になぞらえて、「経済的持続性」「物質的持続性」に加えて「この持続性」を確保することが、我が国農業の持続的発展を図る上で大切であるとして結ばれ、全国に向けて提言された。

（山口県農村整備課（旧耕地課）教授と地  
創設70周年記念行事実行委員会）



雄大な棚田が広がる油谷町の現地見学会の様子。  
参加者たちは熱心に質問をしていた。

元山口県内から中原中也記念館

の福田百合子館長、藤田芳久油

会館で開催され、6人のパネリ

ストにより、1200名の参加者のもと県北西部の油谷町向津具半島に広がる大棚田地帯をケ

行われた。昨年7月の食料・農業・農村基本法の施行を受けて、「棚

田学会」と「食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議」が主催した。

パネルディスカッショニは、棚田学会会長の石井進・東京大学名誉教授をコーディネーターに、

田地帯であるこの半島にこれほど

の棚田やため池が今なお維持されている要因は何か、その答え

こそが新基本法に掲げられた理

念の柱の一つである「農業の持続的な発展」のキーワードとなり得るのでないかとして、活発な議論が進められた。まとめとして、この地と関係の深い毛利元就の「三本の矢」になぞらえて、「経済的持続性」「物質的持続性」に加えて「この持続性」を確保することが、我が国農業の持続的発展を図る上で大切であるとして結ばれ、全国に向けて提言された。

（山口県農村整備課（旧耕地課）教授と地  
創設70周年記念行事実行委員会）

9月13日～14日 第6回全国棚田（千枚田）サミット

# 福岡県浮羽町&星野村で開催!!

福岡県浮羽町と星野村で開催される2000年（第6回）全国棚田サミットについては、各方面からご支援を賜り深く感謝申上げております。

さて、今大会最大の特色は、「地域連携」が叫ばれ続けているなか、史上初の複数の自治体による共同開催として取り組むことがで

きたことです。

広域開催ならではのハンディ

については、とくに県の農政部門、町おこし部門から、積極的に支

援をいただきながら、県と市町

村の連携型の開催となつたこと  
も特筆できます。

今後は、この大会を通じて地域が経験できたノウハウなどを十分に生かしながら、貴重な地

回は浮羽町と星野村の2つの小学校児童が日ごろの棚田保全の取り組みについて自らステージ上での事例発表に登場することが実現しました。

そのほか、浮羽と星野には、見事な石組の棚田がありますが、

会場の前に石垣を築くなど棚田保全と並行した「石垣保全」の

（2000年全国棚田サミット

事務局  
浮羽町企画振興課 滝内宏治）

観点を強く盛り込んでいくこと  
もできました。

今後は、この大会を通じて地域が経験できたノウハウなどを十分に生かしながら、貴重な地

域資源「広内・上原棚田」（星

野村）、「つづら棚田」（浮羽町）を中心とした地元の棚田を生かしたグリーン・ツーリズムによ

る地域活性化にますます力を注いで参ります。

（2000年全国棚田サミット

事務局  
浮羽町企画振興課 滝内宏治）

## 募集・イベント情報

### ●熊本県で棚田を考える パネルディスカッショニ開催

10月25日13時～熊本県熊本市・メルパルク熊本ホールにおいて、「棚田トーケン」が開催される。

棚田地域での保全活動紹介や講演、パネルディスカッショニなどが行われる。問・申込・熊本県農村整備課 TEL・096・383・1111（内線5473）

菊鹿町 10月1日～矢部町 8  
日～湯の鶴 9日～西原村 15日  
球磨村 27日～泉村 問・熊本  
県農村整備課 TEL・096・383・1111（内線5473）

正会員<自治体>鳥取県若桜町 長崎県外海町 三重県龜山市  
正会員<団体>鳥取県農林水産部農政課  
(社)中山間地域等農業活性化支援協会

## 会員募集中

### 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

三重県紀和町 企画観光課

〒519-5413 三重県南牟婁郡紀和町板屋78  
TEL 05979-7-1111 FAX 05979-7-1003

## 新しく会員になったみなさま

正会員<自治体>鳥取県若桜町 長崎県外海町 三重県龜山市  
正会員<団体>鳥取県農林水産部農政課

(社)中山間地域等農業活性化支援協会

## 編集後記

次号、「あなたにとって棚田とは何ですか？」をテーマに一言集を掲載します。あなたにとっての棚田とは何かを最大30文字でお寄せください。一言では言い表せないことは充分承知のうえ、あえて一言でお願いします。あなたの名前・お住まいの地域・職業・年齢をお書き添えください。全国棚田(千枚田)連絡協議会の会員に限りません。お知り合いにもお声をかけて、ライラックス編集部までFAX03-5389-0078、もしくはEメール:Fctanada@aol.comまで、10月23日(月)までお送りください。お待ちしています。お便りテラスにもみなさんの活動などをお寄せください。

石井里津子